

新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画<たたき台> (概要版)

(計画期間：計画決定～平成33年度)

生徒減少期対策審議会答申 (H24.8月)

「生徒減少期に対応した県立高等学校教育の充実・発展に資する対策について」

「新たな生徒減少期に対応した佐賀県立高等学校再編整備実施計画 (新実施計画)」<たたき台>

新実施計画策定に当たっての基本的な考え方

《背景》

- ・ 新たな生徒減少期
- ・ 社会経済情勢の変化

《目標》

- ・ 生徒が進路希望を実現できる教育環境の整備
- ・ 高等学校教育の質的充実

《方向性》

- ・ 長期的・全県の視野に立った高等学校の再編整備の推進
- ・ 高等学校の学科等の整備

再編整備の基本方針

1 学校規模

1学年160人～320人(4学級～8学級)とする。ただし、1学年120人(3学級)の学校については、柔軟に対応する。

2 再編の対象

次のいずれかに該当する場合は、再編の対象校として検討する。

- ・ 1学年120人(3学級)以下の高等学校で、学校規模に由来する課題により、必要な教育活動を維持することが困難であると見込まれる場合
- ・ 1学年120人(3学級)の高等学校で、定員を維持することが困難と見込まれる場合
[1学年80人(2学級)の高等学校が存続する場合]
 - ア 特色ある教育施策の実施等により、県全体の教育効果を高めることが特に期待される場合
 - イ 地理的条件や交通事情により、生徒の教育に重大な支障を来すことが懸念される場合

3 通学区域

学校の配置状況、生徒の通学状況、地域間のバランスを総合的に勘案して、平成28年度から、現在の4学区を再編し、当面、東部学区と中部学区を合わせた学区(以下「新東部学区」という。)と北部学区と西部学区を合わせた学区(以下「新西部学区」という。)の2学区とする。

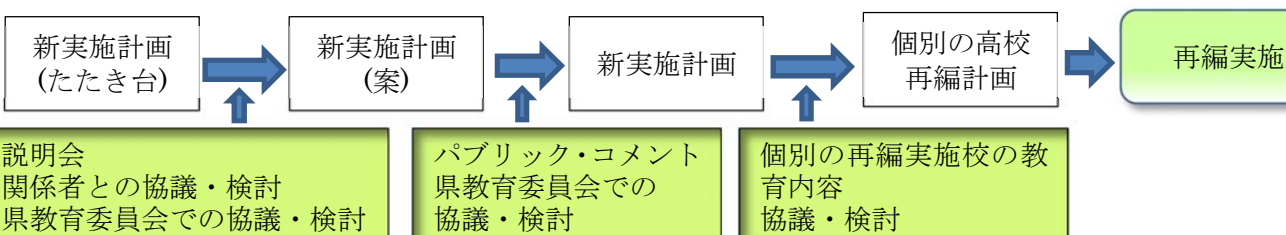
なお、さらに通学区域を拡大し、全県一区とすることについては、2学区とした後の通学状況等を検証しながら、引き続き検討していくこととする。

再編整備の進め方

1 たたき台の位置づけ

このたたき台は、説明会を開催し、学校関係者はもとより、地域や行政関係者などにも十分情報提供を行い、協議を行っていくためのものである。

2 再編整備の進め方



県立高校の活性化

1 基本的な考え方

今後の県立高等学校の質的充実を図るための視点

- (1) グローバル社会への対応
- (2) 産業技術の高度化への対応
- (3) 教育機会の更なる拡大

2 学科等整備の基本方向

- (1) グローバル社会に対応した学科等の検討
- (2) 産業技術の高度化へ対応した専門学科等の基本方向
 - ① 職業教育の中心的な役割を担う高等学校
 - ② 高度技能者の育成(専攻科等についての検討)
- (3) 生徒の実態に応じた教育機会の更なる拡大

具体的な再編整備計画（第一次実施計画関係）

1 第一次実施計画に掲げた再編整備計画

(1) 新西部学区

① 伊万里地区（平成31年度まで） 教育委員会たたき台

再編対象校	伊万里商業高等学校 伊万里農林高等学校
新高等学校の場所	伊万里商業高等学校又は伊万里農林高等学校（伊万里市）
募集定員	1学年200人（5学級規模）
学科構成	農業科 商業科
（備考） 上記案の他、必要に応じて農業科については現伊万里農林高等学校校舎を、商業科については現伊万里商業高等学校校舎を利用することも検討する。	

なお、教育委員会のたたき台の他に、

- ・ 伊万里高等学校と伊万里商業高等学校の再編案
- ・ 伊万里高等学校、伊万里農林高等学校、伊万里商業高等学校3校での再編案についても、地域の意見も聞きながら検討する。

② 武雄・杵島地区（平成30年度まで） 教育委員会たたき台

再編対象校	佐賀農業高等学校 杵島商業高等学校
新高等学校の場所	佐賀農業高等学校（白石町）
募集定員	1学年200人（5学級規模）
学科構成	農業科 商業科
（備考） 上記案の他、必要に応じて農業科については現佐賀農業高等学校校舎を、商業科については現杵島商業高等学校校舎を利用することも検討する。	

（平成32年度まで）

再編対象校	上記再編高等学校 白石高等学校
新高等学校の場所	佐賀農業高等学校（白石町）
募集定員	1学年280人（7学級規模）
学科構成	普通科 農業科 商業科

なお、教育委員会のたたき台の他に、

- ・ 白石高等学校と杵島商業高等学校の再編案
- ・ 白石高等学校、佐賀農業高等学校、杵島商業高等学校3校を一度に再編する案についても、地域の意見も聞きながら検討する。

(2) 定時制・通信制

① 鳥栖高等学校定時制、佐賀商業高等学校定時制及び佐賀北高等学校通信制の再編による定通併置校の設置

平成21年3月に策定した「佐賀県立高等学校再編整備第二次実施計画」において鳥栖高等学校定時制を鳥栖工業高等学校定時制と再編したことから、当該再編は実施しない。

なお、佐賀北高等学校通信制と佐賀商業高等学校定時制の再編については、新実施計画の中で引き続き検討することとする。

② 唐津商業高等学校定時制及び伊万里商業高等学校定時制の再編 通学に係る課題の解消が難しいことから、当面、当該再編は実施しない。

具体的な再編整備計画（新実施計画関係）

2 新たな再編整備計画

(1) 新東部学区

① 神埼地区（平成30年度まで） 教育委員会たたき台

再編対象校	神埼高等学校 神埼清明高等学校
新高等学校の場所	神埼清明高等学校（神崎市）
募集定員	1 学年240人（6 学級規模）
学科構成	普通科 総合学科
<p>（備考）</p> <p>神埼清明高等学校の系列の一部（農業関係系列）を高志館高等学校に移管し、高志館高等学校に1 学級を加えることも検討する。</p> <p>上記案の他、必要に応じて普通科については現神埼高等学校校舎を、総合学科については現神埼清明高等学校校舎を利用することも検討する。</p>	

② 佐賀地区

佐賀北高等学校通信制の校舎が老朽化していることから、早急に施設面での改善を図る必要があり、移転することも含めて検討している。

また、移転する場合は、不登校経験や発達障害のある生徒等に対し、教育機会を拡大するために、昼間定時制の導入等についても併せて検討する。

(2) 新西部学区

① 唐津地区（平成30年度まで） 教育委員会たたき台

再編対象校	厳木高等学校 唐津西高等学校
新高等学校の場所	唐津西高等学校（唐津市）
募集定員	1 学年240人（6 学級規模）
学科構成	普通科
<p>（備考）</p> <p>厳木高等学校は唐津西高等学校と再編し、唐津西高等学校に普通科1 学級を加えるとともに、通学実態を勘案し、多久高等学校に1 学級を加えることも検討する。</p> <p>上記案の他、必要に応じて各校舎を利用することも検討する。ただし、この場合は多久高等学校への学級増は見送る。</p>	

なお、このたたき台の他に、厳木高等学校と唐津商業高等学校の再編案についても、地域の意見も聞きながら検討する。

※ 唐津青翔高等学校

平成30年度までに1 学級を減じる必要があり、再編検討の対象校となるが、第一次実施計画により、東松浦高等学校と唐津北高等学校を再編して設置した学校であるため、今計画では再編対象とはしない。

② 鹿島・藤津地区（平成30年度まで） 教育委員会たたき台

再編対象校	鹿島高等学校 鹿島実業高等学校
新高等学校の場所	鹿島高等学校（鹿島市）
募集定員	1 学年280人（7 学級規模）
学科構成	普通科 商業科 家庭科
<p>（備考）</p> <p>上記案の他、必要に応じて普通科については現鹿島高等学校校舎を、商業科・家庭科については現鹿島実業高等学校校舎を利用することも検討する。</p>	

再編対象校	塩田工業高等学校 嬉野高等学校
新高等学校の場所	塩田工業高等学校又は嬉野高等学校（嬉野市）
募集定員	1 学年200人（5 学級規模）
学科構成	工業科 総合学科

（備考）

上記案の他、必要に応じて工業科については現塩田工業高等学校校舎を、総合学科については現嬉野高等学校校舎を利用することも検討する。

なお、このたたき台の他に、鹿島実業高等学校と嬉野高等学校の再編案についても、地域の意見も聞きながら検討する。

※ 太良高等学校

現在2 学級であり、再編検討の対象校となるが、第二次実施計画により、平成23年度に新しいタイプのモデル校として改編した高校であり、今計画では再編対象とはしない。